

串田孫一

自然と美と心

人と思想 ■ 文藝春秋

人と思想

自然と美と心

串田孫一



文藝春秋

自然と美と心

定価 一八〇〇円

昭和四十七年四月二十五日 第一刷
昭和五十三年七月二十日 第五刷

著者 串田 孫一

発行者 檜原 雅春

発行所 株式会社 文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町三
電話(代) 二六五一 二一一番

印刷所 凸版印刷

製本所 中島製本

* 万一落し・乱丁の際はお取替いたします

目次

I

自然の美 15

色 15 光 20 姿 24

動・静 29

山と美と心 34

自然についての手紙 41

手紙1・雲について 41

手紙2・花について 43

手紙3・雨について 45

手紙4・街について 47

手紙5・樹について 49

手紙6・鳥について 51

手紙7・海について 53

手紙8・夜について 55

鳥瞰 58

雲 山 谷 62 66

道 街 岬 海 湖 78 82 86 90 70

川 島 74 94

山の非体系的地理学 98

山の革命 98

山の遊園地 101

病める山 105

怪物の出現 106

II

藝術以前 111

鯨の絵 111

農夫の像 115

ハンドルを握る日 120

油絵の手伝い 124

陶工見習 129

消ゴム彫り 133

風邪を引いた紙 138

再会 140

自然の中の藝術 142

藝術家の砦 143

花と心 144

絵の道 153

画塾 153

写生 156

絵具 159

庭の設計 161

虹の中の絵本 162

消えるべき想念 164

初冬の上高地 167

戦慄 171

夢みる心の絵 173

蕪村 179

音楽との対話 185

音楽との対話 185

天使の翼 191

音楽と詩 198

室内楽について 201

古い夜 203

幼い日の歌 205

山の歌と沈黙 209

漂泊の旅の心 215

チロルからの花束 218

冬の旅 219

合奏 224

音楽断想 I 227

彼のピアノ 227

手の力 229

再び音楽と詩 230

玩具のピアノ 232

楽器を造る夢 233

やさしい曲 235

言い訳 236

初見 238

楽譜 239

留守宅 241

音楽断想 II 243

家庭音楽 243

楽器の対話 245

舞台 246

招待券 248

楽譜の整頓 250

楽器の入院 252

曲藝演奏 254

小笛 256

傾聴の心 258

未来に輝く生命 258

楽器による語り合い 265

バロック音楽 268

音楽から生れる絵 272

人間の感受性の変遷 275

音楽批評の表現の粹 281

殿堂への誘い 284

III

文章による表現 295

表現の悦び 297

手紙について 304

古い手紙 309

愛情の衣裳について 313

哀歌 317

心づかい 322

リズム 328

アクセント 332

日記について 336

白い頁の魅力 343

深刻を悦ぶ心 346

幸福の影 351

素顔 355

息づかいについて 360

手垢のついた言葉 363

文学のことで 366

独白と対話 370

詩について 373

思想の表現 384

IV

人生に関する十三章 395

自分の味わっている快樂を深く探ること 397

苦悩の中に感じられる奇妙な甘さ 404

突然の死がよいか悪いか 413

永遠に向って手をさしのべる思考 419

運命あるいは成功と失敗の証明 423

不安は高尚な情緒ではないこと 434

自然の傾向を無理に抑えない人 441

聖母マリアあるいは男性を必要としない懐胎 448

甘やかされた欲望の危険 453

爪を切ることと爪を赤く染めること 456

物的利益に食われる趣味 462

ユーモアにはざらざらした笑いはないはず 467

また一人間違えるのかとデカルトがいう 474

後記 487

初稿発表覚え

著書一覧

自然と美と心

夜色楼台雪万家図(182—183頁)

神戸市武藤家蔵

坂本写真研究所撮影

